

秋田落

第36号
俳人協会秋田県支部報
〔題字〕 故 岡田夏生氏

俳人協会秋田県支部 令和6年度定期総会・俳句大会

令和6年5月12日、協働大町ビルにおいて本部より山崎祐子評議員をお招きし令和6年度定期総会・俳句大会を開催した。出席者16名。

総会は冒頭、当支部の物故会員に対する黙祷を捧げた後、佐藤景心支部長の挨拶で開会。神成石男常任幹事を議長に選出して、5年度事業報告・決算並びに基金報告及び6年度事業計画・予算案を原案通り承認した。

俳句大会は、山崎先生による「境界に祀る神と季節感―秋田県の民俗を中心に―」と題する講演が行われ、専門の民俗学の立場から何度も当県に調査に入られた経験をもとに進められた。

最初に、現在使われている新暦と旧暦(太陰太陽暦)の1年間若しくは1か月の時間的な差異、リセット(閏月)の仕方などを比較して説明され、二十四節気との関連に言及、次に空間の境界に祀る神として藁人形などの道祖神、時間の境界に祀る神として男鹿のナマハ

ゲ、刈和野の大綱引き、西馬音内の盆踊りなど、県内各地の祭を例にその民俗学的な意味合いと季節感について説明された。出席者は、当県の、そして己が故郷の祭等がかくのごとき民間伝承的な背景を持ち、しかも当県人がそれらの祭等に裏打ちされた豊かな、独自性のある季節感(季語)を持ち合わせていることに認識を新たにされた。

引き続き俳句大会の選評が行われ、山崎先生から丁寧な講評と指導をいただくとともに、その後の懇親会も和やかに歓談、午後5時散会した。

令和6年度俳人協会秋田県支部



山崎評議員

第34回俳人協会秋田県支部 俳句大会の成績

5月12日、協働大町ビルにおいて第34回支部俳句大会を実施。会員及び一般俳句愛好者より224句が投句され、本部評議員の山崎祐子先生と特定選者3名による選と選評が行われた。

入選句、互選高句は次のとおりであった。

山崎 祐子 先生 選

特選	峰雲に向かひ校歌のタクトとる	園部 落郷
特選	春光や撫で仏撫で子の頭撫づ	塚本 佐市
秀逸	剪定の音青空を広げをり	大橋 風太
同	野に遊ぶ余る齢をぬぎすてて	保泉 草笛
同	木漏れ日の秘湯に足湯サングラス	明天地ひろし
佳作	お兄ちゃんとかから呼ばれうらけし	佐藤 茂樹
同	国ごとの富士のありけりつくしんぼ	安倍 幸一
同	喜雨いたる羽後一円の音となり	園部 落郷
同	雁風呂や妣の梳き櫛追ひ焚きに	柳川 大亀
同	雨垂れの光膨らむ遅日かな	京野 幸子
同	産土の見ゆる北窓開きけり	神成 石男
同	先生の名もひらかなや一年生	遠山せつ子
同	一列のランドセル菜の花の道	伊東 恵子
同	山葵沢水の囁き汚れなし	岡部いさむ
同	子の数を数えなほしてメロン切る	岡部いさむ

岩谷塵外選

特選 峰雲に向かひ校歌のタクトとる

園部 落郷

秀逸 帰るさの海へ一礼鮑とり

柳川 大亀

同 一列のランドセル菜の花の道

伊東 恵子

佳作 放牛の草の若葉のパワー食む

佐々木公平

同 雛飾る妻の遺影の真正面

加藤 一弥

同 春耕やたちまち失せる鍬の錆

神成 石男

同 山葵沢水の囁き汚れなし

岡部いさむ

同 お隣とすぐ打ち解けて花筵

熊谷 尚

熊谷 尚選

特選 雛飾る妻の遺影の真正面

加藤 一弥

秀逸 初蝶の通りし後の風美しき

鈴木アヤ子

同 桃の日の姉妹はいまも渾名にて

斎藤 淳子

佳作 お兄ちゃんとかから呼ばれうらけし

佐藤 茂樹

同 つんつんと浅葱匂ふ家路かな

大宮 浩樹

同 先生の名もひらかなや一年生

遠山せつ子

同 花愛でし母恙なく百五歳

蛭田 庸子

同 記念日の皿の白さや春うらら

津谷 郁哉

高田 洋子選

特選 旅立ちの子へ春光のあふれしむ

佐々木亮子

秀逸 まだ馴れぬ妻なき余生日向ぼこ

藤井 洋舩

同 護岸工事終へて柳の芽吹き始む

米屋 道子

佳作 峰雲に向かひ校歌のタクトとる

園部 落郷

同 春耕や息止めて聴く土の声

松井 憲一

同 パソコンのままならぬまま春愁ひ

齊藤 千哲

同 啓蟄や川には添はずバス曲がる

小川 千草

同 置き去りにされし自転車土筆伸ぶ

泉 千穂子

互選の得点順位（⑧点まで11句）

一席⑬ 先生の名もひらかなや一年生

遠山せつ子

二席⑮ まだ馴れぬ妻なき余生日向ぼこ

藤井 洋舩

三席⑫ 剪定の音青空を広げをり

大橋 風太

四席⑩ 本籍を施設に移し見るさくら

加瀬谷敏子

⑩ 峰雲に向かひ校歌のタクトとる

園部 落郷

⑩ 不揃ひの地物は手ごろ春の市

齊藤 千哲

七席⑨ 旅立ちの子へ春光のあふれしむ

佐々木亮子

⑨ 花愛でし母恙なく百五歳

蛭田 庸子

九席⑧ 野に遊ぶ余る齢をぬぎすてて

保泉 草笛

⑧ 雛飾る妻の遺影の真正面

加藤 一弥

⑧ 春耕や息止めて聴く土の声

松井 憲一



追悼 岩谷塵外副支部長

岩谷塵外副支部長は、令和7年1月1日逝去されました。享年84。

平成22年支部入会、25年度役員ご就任、令和5年度から副支部長。笑顔を絶やさず、温厚で思慮深く、支部運営の中核としてご尽力いただきましたとともに、東北俳句大会や支部俳句大会などの選者を務めていただきました。

塵外さんは、俳人協会のほかにも各種団体の役員となられ、中でも結社の枠を越えて俳句愛好者の交流の場となる秋田県俳句懇話会では会長や事務局長として50にも及ぶ結社を纏めあげました。

俳句実作の場では、「百鳥」や「ホトトギス」に参加、「百鳥」では令和5年に鳳声賞を受賞、幹部同人として活躍、「東北百鳥の会」を立ち上げて事務局長に就任されました。「ホトトギス」でも同人として活躍され、令和4年から日本伝統俳句協会東北支部長に就任されました。

俳句受賞歴も数多い中、平成6年だけでも、「まだ明けぬ市場に花の初荷着く」が秋田魁新報社新年文芸の第二席に、「露けしや津波遺稿も語り部も」がNHK全国俳句大会の佳作に、「引鴨や雲の領巾振る鳥海山」が俳人協会全国俳句大会で特選となりました。

こうした俳句文芸の取り組みや普及活動などが高く評価され、令和4年12月、秋田県芸術文化章を受章されました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

御降りや悲しむ人を包み込み

景心

第27回支部会員 鍛錬句会の成績

令和5年12月8日を投句締切として第27回支部会員鍛錬句会を実施、166句が投句された。

入選句、互選高点句は次のとおりであった。

山田 真砂年先生 選

特選 着ぶくれて居間に居座る秋田弁 保泉 草笛

【評】 省略の効いた句だが、「着ぶくれ」「居座る」

「秋田弁」の措辞から想像が膨らむ。今や正調秋田弁を話すのは高齢の方だけだと思うので、この方も少々耳が遠くなつて、その分声も大きい。衣類も最近の保温性の高いものでなく昔ながらの綿入れなどで着ぶくれているのだろう。少し酔っているのだろうか、家人もやや持て余している。

特選 介護士を迎ふる径や雪を搔く 佐々木あや子

【評】 優しさが伝わってくる句。介護士が来る前にご自宅の前の径の雪搔きをした。介護される側の人たちも出来ることをして介護士を迎えるのだ。こうした気遣いが介護する側、される側の双方に互いを労るような心の交流が生まれるのだろう。介護士も雪搔きされた径を来て、その心遣いを感じているに違いない。

秀逸 しんがりは喃語も出でて初電話 大橋 風太
同 雪で喉潤してをり除雪車夫 園部 落郷

同 北窓塞ぐ板より一条の光 五十嵐義知
佳作 笹鳴や飲み余したる粉葉 木村 登龍

同 謎解きの途中窓打つ初霰 田村 陽子

同 ポインセチア窓辺に残し退院す 遠山せつ子

同 試歩終へる土葱二本いただきて 遠山せつ子

同 人力車出払つてゐる小春かな 熊谷 尚

同 福寿草村に分家の増ゆるごと 安倍 幸一

同 餅花や見つかるやうにかくれんば 塚本 佐市

同 生きるものみなひつそりと冬景色 津谷 郁哉

同 ふくろふを招じぬ終ひ湯を落とし 齋藤 淳子

同 山川をまず浮き立たせ冬花火 齋藤 淳子

園部 落郷 選

特選 あめつちに何訴へる賜高音 松橋テル子

【評】 現在の俳壇は混沌としている。それまでは混沌の時代であった。そんな中で何故、鷹羽狩行・金子兜太に文化勲章の授与が無かったのか。高浜虚子や久保田万太郎が受賞してから久しい。

桑原武夫の第二芸術論が響いているのであるうか。暫くは、混沌とした俳壇が続くであろう。揚句のあめつちに賜の高音が厳しい。

秀逸 生涯に残る句はなし日向ぼこ 加藤 一弥

同 まだ失せぬ記憶たどりつ冬籠 加藤 栄女

佳作 追ひ抜いてゆく人ばかり十二月 木村 登龍

同 拾得の髪に纏はる枯葉かな 神成 石男

同 柿を挽ぐ午後の梯子を掛け直し 佐藤 景心

同 入寂の喪のうちなるや初旦 田口 奎吾

同 生涯を農に関はり初明かり 藤原貢太郎

森屋 慶基 選

特選 掛唄に固唾をのめば夜の深さ 加藤 一弥

【評】 「掛唄」は季語ではありませんが、県南の俳句大会では、季感のある語として認めており、横手市金沢神社の九月例祭の宵宮祭として夜を徹して掛け合う、仙北荷方節の節に合わせ即興の歌合戦は古くから伝わるものです。「掛唄」は、午後九時から中学生の部が披露され、十一時頃から大人の部になる、二人の掛け合いが面白く、名人級の出演は一時頃からになる、更に決勝戦は、東の空が明け初めてからと言う、徹夜のお祭りである。「掛唄に固唾をのめば夜の深さ」とは聞き入るほどに時を忘れ気が付けば、夜中の二時三時頃となる。「夜の深さ」とは名人達の掛け合いを聞きたい為であり、徹夜となるのは覚悟のお祭りです。

秀逸 妻といふ変はらぬ友と初日の出 保泉 草笛

同 彼の年の彼の地の出会ひ賀状書く 佐藤 茂樹

佳作 しんがりは喃語も出でて初電話 大橋 風太

同 上皇陛下突如お通り小春風 小坂 富子

同 初雪の威風増しくる屋敷松 明沢 榮子

同 人力車出払つてゐる小春かな 熊谷 尚

同 初暦いつもの部屋の改まる 伊藤恵美子

熊谷 尚 選

特選 生涯に残る句はなし日向ぼこ 加藤 一弥

【評】 上五中七では、自身の俳句人生をやや悲観的に振り返っているような印象を受けるのです

が、下五の「日向ぼこ」まで詠むと、その印象が履されます。出来不出来にこだわることなく、純粹に俳句を楽しんでいる大らかな人物像が浮かび上がってきます。「季語の力」というものを感じる一句でした。

秀逸	妻の名を呼べば水鳥寄り来る	小林 呼溪
同	いくさよあるな初空の真青かな	二藤 誠祥
佳作	追ひ抜いてゆく人ばかり十二月	木村 登龍
同	初時雨鼻緒の紅を濃く濡らす	田村 陽子
同	境内に紙芝居来る文化の日	神成 石男
同	ポインセチア窓辺に残し退院す	遠山せつ子
同	福耳のはみ出してゐる冬帽子	伊藤恵美子

互選の得点順位（7点まで11句）

一席⑬	福耳のはみ出してゐる冬帽子	伊藤恵美子
二席⑫	駒を打つ一手の響き冬館	打川 典子
三席⑩	追ひ抜いてゆく人ばかり十二月	木村 登龍
四席⑨	生涯に残る句はなし日向ぼこ	加藤 一弥
⑨	ポインセチア窓辺に残し退院す	遠山せつ子
⑨	介護士を迎ふる径や雪を搔く	佐々木あや子
七席⑧	しんがりは喃語も出でて初電話	大橋 風太
⑧	大根の機嫌うかがふ燻小屋	加藤 一弥
⑧	生きるものみなひつそりと冬景色	津谷 郁哉
十席⑦	牛舎にも櫛のみどり去年今年	佐々木公平
⑦	山川をまず浮き立たせ冬火花	齋藤 淳子



第2回支部会員
夏季鍛錬紙上句会の成績

7月12日を締切として第2回夏季鍛錬紙上句会を実施。168句が投句された。

入選句、互選高句は次のとおりであった。

小野 寿子 選

生涯を漁師に徹し涼しき瞳

身の丈の暮らしを守り胡瓜もみ

盛り上がる女ばかりの暑気払い

白神のいのちみなぎる雲の峰

杣小屋の薄き屋根打つ青胡桃

涼風や東海林太郎の直立像

農婦らで俄か句会す雨休

脇役の締めの一箸胡瓜漬

風知草小さな風と戯るる

靴ぬいで登る砂丘や晩夏光

麦秋や峠の上の無名墓地

嫁に来て墓守りなるや夏の草

新盆や撞鉢の音ねんごろに

薔薇咲かせ卒寿ゆるりと日の暮るる

渓谷を吹き抜ける風青胡桃

白濱 一羊 選

特選 食べつ振り衰へ知らぬ羽抜鶏

同 床の間に大の字となる帰省の子

秀逸 農婦らで俄か句会す雨休

同 靴ぬいで登る砂丘や晩夏光

同 咲くよりも落ちるに力夏椿

佳作 ほうたるを見つけ声などひそめけり

同 ユッカ咲きのほつて天を明るくす

同 帰省バス乗った途端に国訛

同 釣り堀の真中に橋や梅雨の入り

同 木道の十字路ことに花菖蒲

同 狩行逝く五月雨の最上川

同 校長の机にいつも麦わら帽

同 消滅と言はれし里や雲の峰

同 前触れもなく朝顔の咲いてをり

同 流燈会どこへも行かぬ父連れて

高宮 義治 選

特選 陶枕に眠れば深き海の底

同 佛壇に先づ一服の新茶かな

秀逸 生涯を漁師に徹し涼しき瞳

同 熟考の末の白扇響きをり

同 白神のいのちみなぎる雲の峰

佳作 山稜の日々に膨らむ若葉時

同 涼風や東海林太郎の直立像

同 地震いくさ無き世を念じ夏書せる

同 身の丈の暮らしを守り胡瓜もみ

同 ハングライダーとびたつ山や夏旺ん

同 盛り上がる女ばかりの暑気払い

同 薔薇咲かせ卒寿ゆるりと日の暮るる

同 久に読む露月の句集紙魚走る

同 成りゆきに任す余生や濃紫陽花

同 新茶汲む終の一滴出し切つて

「あきたの文芸」第57集 支部員の成績

10月29日、秋田県が主催する「あきたの文芸第57集」が発表され、支部員の成績は次のとおりであった。

◇入選

「田植時」

瀬川恵美子

◇入選

「ふるさと」

田村 陽子

◇入選

「詩の国」

高橋 雄子

令和7年度

県支部俳句大会の

講師にご来県予定の

横澤 放 川 先生

先生は昭和22年静岡県生まれ。

昭和50年「萬緑」に入会、中村草田男に師事。

61年萬緑新人賞、平成4年萬緑賞受賞。同年

より「萬緑」編集に携わる。15年より「件」参

加。21年からの同人欄選者を経て23年より「萬

緑」選者。

句集に『展掌』。日本経済新聞俳壇選者。

第4回秋田県短詩型文芸大会 入選作品

秋田県芸術文化協会が主催し秋田県支部が後援する第4回秋田県短詩型文芸大会が7年2月8日、にぎわい交流館で開催された。

支部員の入選作品は次のとおりであった。

佐藤 景心選

特選 読み返す寂聴源氏秋ともし

秀逸 啓蟄やよろづ屋で買ふ熊の鈴

入選 実り田を左右に侍らせ雄物川

同 三輪車パン屋にママと赤とんぼ

同 こぼれ萩風さらふまで掃かずをく

佐々木 公平選

秀逸 赤とんぼ空を舞台のバレリーナ

入選 山の湯はむかし学び舎色鳥来

森田 千枝子選

特選 家仕舞い庭に寒菊二三本

入選 枝々に頭ねぢ込み袋掛

同 啓蟄やよろづ屋で買ふ熊の鈴

公益社団法人俳人協会主催 第63回全国俳句大会 入選作品

9月10日開催した第63回全国俳句大会の当県支部員の入選並びに予選通過作品は次のとおりであった。
なお、今大会の投句総数は1万1185句、予選通過作品は1,950句であった。

石井 いさお選

特選 引鶴や雲の領巾振る鳥海山

片山 由美子選

入選 穂の芽や人手に渡す山の畠

徳田 千鶴子選

入選 引鶴や雲の領巾振る鳥海山

西村 和子選

入選 白神の樺のおたけび木の根開く

予選通過作品

関伽桶のさかさに積まれ水温む

穂の芽や人手に渡す山の畠

引鶴や雲の領巾振る鳥海山

岩谷 塵外

神成 石男

岩谷 塵外

塚本 佐市

神成 石男

岩谷 塵外

白神の樞のおたけび木の根開く
だんだんに方言増ゆる花庭
妹が生まれ万歳小鳥来る
海鳴りや流離のかほの古籬

塚本 佐市
塚本 佐市
佐藤 景心
岸部 吟遊

石井露月顕彰

第66回全国俳句大会 入選作品

秋田県支部が後援する第66回石井露月顕彰全国俳句大会が9月14日、秋田市雄和市民サービスセンターで開催された。

支部員の入選作品は次のとおりであった。

佐藤 景心 選

秀逸 ぬひぐるみ離さず眠る日焼の子 伊藤恵美子

入選 母と子の同じ笑窪やさくらんぼ 大橋 風太

同 秋風やむらさきがかかる古戦場 加瀬谷敏子

佐々木 公平 選

特選 鳥海山に縦縞の膚夏は来ぬ 二藤 誠祥

入選 右手に摘み左手に梶や蓴舟 神成 石男

同 ぬひぐるみ離さず眠る日焼の子 伊藤恵美子

森田 千枝子 選

入選 宇宙に住む未来そうな白夜かな 齋藤 幸子

第40回奥の細道象潟 全国俳句大会 入選作品

秋田県支部が後援する第40回奥の細道象潟全国俳句大会が8月3日、にかほ市象潟公民館で開催された。

支部員の入選作品は次のとおりであった。

岸本 尚毅 選

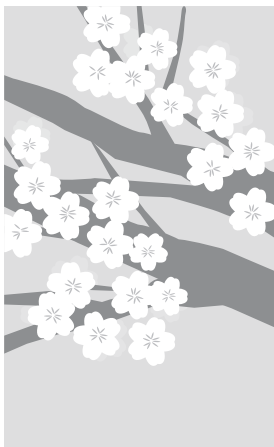
特選 象潟や五坪の島の蕨探る 園部 路郷

同 土手長しとどこに夏あざみ 宇佐見レイ子

秀逸 早乙女に交じる園児に泥深し 神成 石男

佳作 田帰りの母の遅しや夕螢 園部 路郷

同 鉛筆に名前書く欄入学す 神成 石男



公益社団法人俳人協会主催 第35回東北俳句大会・ 山形大会入選作品

東北俳句大会・山形大会は、9月16日・ホテルメトロポリタン山形で開催された。

支部員の特選句は、次のとおりであった。

大会賞

塩入れて餡引き締まる涅槃西風 岸部 吟遊

特選

角谷 昌子 選 塩入れて餡引き締まる涅槃西風 岸部 吟遊

草野 力丸 選 巨いなる征爾逝く夜冴返る 木村 登龍

澤口 航悠 選 母いつも開けおく戸口燕来る 塚本 佐市

横山 節哉 選 一国を貫く夏の大河かな 安倍 幸一

伊藤 ふみ 選 杖の身と言へど健脚青き踏む 小林 呼溪

【当日投句の部】

二階堂光江 選

ふるさとをまた訪ねられ秋の旅 泉 千穂子

支部員消息

令和六年

【三月】

☆佐藤 景心氏 魁新報の文化欄「俳壇」選者となる。
☆岩谷 塵外氏 31日、第25回NHK全国俳句大会
小川軽舟・小澤實・星野高士佳作
露けしや津波遺稿も語り部も

【五月】

☆岩谷 塵外氏 11日、百鳥第29回鳳声賞受賞

【六月】

☆佐藤 景心氏 第18回角川全国俳句大賞で秋田魁新
報社賞受賞。
塗り替へて光る灯台青岬

【七月】

☆佐藤 景心氏 5日、「俳句文学館」(7月5日付け)
のコラム欄「春夏秋冬」に寄稿

☆保泉 草笛氏 19日、「ときかけ読者文芸」(4〜7
月)で推薦作家となる。選者佐藤景心。

【八月】

☆佐藤 景心氏 1日、秋田県芸術文化協会主催「第
4回秋田県短詩型文芸大会」実行委員会に出席

☆佐藤 茂樹氏 同実行委員会に出席

☆佐々木公平氏 同じく実行委員会に出席

☆佐藤 景心氏 5日、「俳句文学館」(8月5日付け)
のコラム欄「春夏秋冬」に寄稿

☆佐藤 茂樹氏 5日、「俳句文学館」(8月5日付け)
「全国41支部事務局長に聞きました」のコーナーに
寄稿

【九月】

☆岩谷 塵外氏 1日、俳誌「百鳥」(9月号)飛鳥

集

巻頭 燕去ぬ地震被災地に十字切り

☆佐藤 景心氏 5日、「俳句文学館」(9月5日付け)
のコラム欄「春夏秋冬」に寄稿

☆佐藤 茂樹氏 5日、「俳句文学館」(9月5日付け)
に鍛錬紙上句会の結果を寄稿

◇15日、仙台市で開催された第3回香雨みちのく句会
で次の方々が入賞。

片山由美子選

秀逸 本棚の上の零戦春の塵 佐藤 茂樹

入選 断崖の上に灯台鯛雲 鳥井 森春

入選 庭先の鬼灯ひとつ母の手に 鳥井 森春

入選 流星や夜の口笛諫められ 佐藤 景心

寒河江桑弓選

特選 硯海のごとき一湾天の川 佐藤 景心

秀逸 本棚の上の零戦春の塵 佐藤 茂樹

秀逸 帰省日に行けぬとだけの子の知らせ 佐藤 茂樹

田口 紅子選

特選 朝顔のつぼみ数へてから下校 熊谷 尚

秀逸 玫瑰や学校挙げて地曳綱 佐藤 景心

秀逸 みちのくの旅の始まり佞武多かな 西東 善秋

☆佐藤 茂樹氏 26日、県主催「2024あきたの文
芸」選考委員会に出席

☆佐々木公平氏 同じく選考委員会に出席

【十月】

◇27日、秋田市・生涯学習センターで開催された秋田
魁新報社主催第97回全県俳句大会(選者西村麒麟)
で次の方々が入賞。

▽講師特選

☆大橋 風太氏 取り壊す生家の梁に蚊帳の釘

☆佐藤 景心氏 竿灯や闇を鬱金に飾り立て

▽秀逸

☆加藤 栄女氏 駅ごとの雪の深さや旅終る

☆石井美智子氏 釣忍夜さりの風は気まぐれに
☆五十嵐芦臚氏 みちのくは旗立つばかり地藏盆

▽互選高点

☆二藤 誠祥氏 2位・田水張る鳥海山の映るまで

☆大橋 風太氏 3位・取り壊す生家の梁に蚊帳の釘

▽佳作

☆阿部清流子氏 梵鐘の澄める余韻や寺の秋

☆岩谷 塵外氏 台網の海が沸き立つ桜鯛

☆瀬川恵美子氏 黒揚羽翹たむ音かすかなり

☆齋藤 幸子氏 老いてなお夢次々と九月来る

☆佐々木公平氏 草刈つて牧の起伏を反転す

☆加瀬谷敏子氏 つゆ草や瑠璃の陣取る古戦場

☆田村 幸子氏 鳥わたる秘仏のおはす男鹿岬

☆神成 石男氏 新道のトンネルくぐる帰省かな

☆山田 草人氏 三途川越えて何処へ秋の蝶

☆島 きく子氏 鬼灯や無人校舎の防犯灯

☆田村 陽子氏 産声や大潮の月天心に

【十一月】

☆佐藤 茂樹氏 5日、「俳句文学館」(8月5日付け)
に県支部総会・俳句大会結果を寄稿

☆佐藤 茂樹氏 5日、「俳句文学館」(11月5日付け)
コラム欄「顔」に支部長紹介記事を寄稿

☆田村 陽子氏 15日、NHK Eテレ「夏井いつきの
よみ旅 in 秋田・山形」に出演

☆佐藤 茂樹氏 20日、県主催「2024あきたの文
芸」表彰式に出席

☆佐々木公平氏 同じく表彰式に出席

令和七年

【二月】

◇1日、魁新報社新年文芸で次の方々が入賞。

☆保泉 草笛氏 佳作・仏壇の父も加はる年の酒

☆伊藤恵美子氏 佳作・御慶先づ鏡の中のわたくしに

基金協力者のご紹介

令和6年度基金にご協力いただいた皆様を紹介いたします。

令和6年12月末現在の累計額は236万8853円となりました。今後とも支部活動に適正に活用させていただきます。(敬称省略)

〔県南地区〕

明沢榮子・麻生白風・阿部清流子・安倍幸一・大石愛子・小川千草・加瀬谷敏子・加藤栄女・小坂富子・小林呼溪・斎藤淳子・西東善秋・瀬川恵美子・園部路郷・高橋雄子・照井志げ女・遠山せつ子・二藤誠祥・藤原貢太郎・森屋慶基・矢野幸男・山田草人

〔由利本荘地区〕

五十嵐芦鱸

〔中央地区〕

相原たかし・泉千穂子・伊藤恵美子・岩谷塵外・宇佐見レイ子・加藤一弥・神成石男・熊谷尚・佐々木あや子・佐藤景心・佐藤茂樹・鳥さく子・鈴木東亜子・高田洋子・田口奎吾・田村幸子・千葉糸子・戸松好造・長川ユリ子・蛭田庸子・保泉草笛・米屋道子

〔県北地区〕

浅野法子・田村陽子・塚本佐市・津谷郁哉・松橋テル子・柳川大亀

人事関係紹介

☆加入新会員

・中央地区

戸松 好造氏(森の座)

田村 幸子氏(森の座)

岸部 吟遊氏(百鳥)

鈴木 哲郎氏(明德俳句会)

安井 武氏(明德俳句会)

早坂きよし氏(明德俳句会)

・県北地区

今野サト子氏(圓)

沢田 欣之氏(明德俳句会)

桜庭 誠子氏(明德俳句会)

訃音

○岩谷 塵外氏(百鳥)

令和7年1月1日ご逝去

享年84歳

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

合掌



令和6年度支部役員

〔顧問〕伊藤恵美子・石川恵美子・木村登龍

〔支部長〕佐藤景心(本部評議員)

〔副支部長〕園部路郷・岩谷塵外

〔常任幹事〕神成石男・斎藤淳子・佐々木公平・

佐藤茂樹(事務局長)

〔幹事〕森屋慶基・熊谷尚・泉千穂子・

宇佐見レイ子

〔監事〕保泉草笛・高田洋子

令和7年度各種大会の予定

○俳人協会第64回全国俳句大会

・4月15日(締切)

・投句用紙は俳人協会ホームページからダウンロード可能

○俳人協会秋田県支部俳句大会

・5月11日(予定・案内通知)

○俳人協会東北俳句大会・秋田大会

・紙上句会として5月中案内通知

○第29回支部会員鍛錬紙上句会

・11月中(予定・案内通知)

○俳人協会俳句大賞

・6月本部会員対象(12月『俳句文学館』発表)

〔注〕夏季鍛錬紙上句会は、当県支部が今年開催される第36回東北俳句大会の主管支部となるため、見送ることとしました。

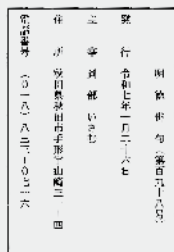
【句集紹介】

岡部いさむ氏が指導する明德俳句が令和7年1月第百九十八号を上梓されました。

明德俳句（第百九十八号）

令和七年一月旬会

明德俳句会



9句抽出

若き日の想ひ手生さるお正月

岡部いさむ

春光に広ぐ十指や時廻る
腕に残る除夜の鐘の音風呂に聴く
新雪に踏み出す一步神詣
何ごとも無きを祝ぐ初景色
去年今年机上の辞書と虫めがね
星空の手に取る高さ淑気満つ
銭湯に命整ふ女正月
物価高家計狂はし年迎ふ

早坂きよし
沢田 欣之
岡部由比女
鈴木 哲郎
安井 武
蛭田 庸子
打川 典子
藤原貢太郎



<565>

公平・公正と分析・果断

佐藤景心氏は昭和26年生まれ、平成16年に俳人協会入会、同25年には県支部事務局長に

就任し、その後、会計を占める名乗り前の意

見交換においても、ど

見交換に帰結してい

定などに結び付いてい

る。

その二つは、分析と

当秋田県も高齢化等

により支部員の減少に

直面している。支部員

俳人協会秋田県支部長

佐藤 景心氏

その一つは公平と公

正。定例会において

は、ベテラン会員も新

入会員も、更には他の

も分け隔て無く尊重

いると否とに拘わらず

した指導の下一丸とな

って諸課題に取り組む所

存である。

印刷所

郵便番号 010-0925

有限会社 三浦印刷

秋田市旭南3-7-5

電話 018-862-2792

俳人協会秋田県支部

編集発行

郵便番号 010-0802

秋田市外旭川字大畑58-4 佐藤景心

電話 018-868-0744

携帯 090-2271-0642

メールアドレス keisins3@cna.ne.jp

ゆうちょ銀行振替

口座番号 02290-9-127266

俳人協会秋田県支部

俳人協会秋田県支部会員の指導句会

(注) ・変更連絡のない句会は全て前年通りとし、句会日の「毎月」は省略したほか、句会の終了予定時刻も省略した。
・指導者等欄の括弧内は幹事等である。

句 会 名	句会日	開始時刻	会 場	指導者等	住所・電話番号
峰浜小学校俳句道場	年間不定		峰浜小学校	柳川 大亀	八峰町峰浜坂形字強坂225 ☎ 0185-76-2471
みのりの吟社俳句会	毎月1回 下旬	13時30分	八峰町公民館	柳川 大亀	八峰町峰浜坂形字強坂225 ☎ 0185-76-2471
能代松俳句会	第2・第4 水曜	13時	能代市中央公民館	塚本 佐市 (連絡)	能代市松美町12-4 ☎ 0185-52-4072
新雪俳句会	第3日曜	13時	明德コミセン	米屋 道子	秋田市栖山南中町7-6 ☎ 018-833-6559
香雨矢羽句会	第3土曜	10時	ねぶり流し館 (随時その他会場)	佐藤 景心 熊谷 尚	秋田市外旭川字大畑58-4 ☎ 018-868-0744 秋田市新屋割山町3-52 ☎ 018-866-6524
土崎俳句研究会	第2金曜	12時30分	土崎図書館		(休 会)
森の座秋田支部句会	第4金曜	13時	あきた文学資料館	佐々木あや子	秋田市横森2-2-27 ☎ 018-833-1293
四季俳句会	第3金曜	10時	あきた文学資料館	島 きく子 (連絡)	秋田市牛島東6-15-2 ☎ 018-834-1842
男鹿俳句会	第3月曜	13時	男鹿市 ハートピア		(休 会)
大正寺俳句会			紙面俳句会	岡部いさむ	秋田市手形字山崎31-4 ☎ 018-833-0716
明德俳句会	第4月曜	13時30分	明德コミセン	岡部いさむ	秋田市手形字山崎31-4 ☎ 018-833-0716
花桐俳句会	第3土曜	13時	南部公民館	島 きく子	秋田市牛島東6-15-2 ☎ 018-834-1842
やまめ句会	中旬	13時	矢島町福祉会館	佐藤柳四郎	由利本荘市矢島町城内字 八森下133 ☎ 0184-55-2488
みなみ句会	奇数月 15日		紙上句会	小林 呼溪	事務局 (二藤誠祥) 美郷町六郷大町22 ☎ 0187-84-0679
横手かまくら吟社例会	5日・20日	13時	横手市女性センター (働く婦人の家)	森屋 慶基	横手市横手町字上真山178 ☎ 0182-32-6464
いなか俳句会	第2水曜	13時30分	いなか生涯学習センター	麻生 白風	湯沢市皆瀬字白沢65 ☎ 0183-46-2727
ゆざわ吟社	第3日曜	13時	湯沢市中央公民館	園部 露郷	湯沢市田町2-2-60 ☎ 0183-73-1581
湯沢俳星会	第1日曜	13時	湯沢市生涯学習センター	園部 露郷	湯沢市田町2-2-60 ☎ 0183-73-1581
さたけ俳句懇話会	第2金曜	13時30分	湯沢市役所	加瀬谷敏子	湯沢市表町4-9-12 ☎ 0183-72-1808

【お願い】 支部員が指導している句会がありましたら、支部としても把握しておく必要がありますので、是非お知らせください。